

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531118

研究課題名(和文) 途上国の中等学校等の多様化と正規性・非正規性に関する国際比較研究

研究課題名(英文) A comparative study on the unauthorized formal schools in the developing countries

研究代表者

杉本 均 (SUGIMOTO, HITOSHI)

京都大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：50211983

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は途上国に存在する非正規学校について、その存在理由と形態について比較調査することを目的としていた。本研究は非正規校と正規校の接続に焦点を当て、中国、インド、バングラデシュ、メキシコ、ペルー、ケニアなどを分析した。その結果、これらの学校の存在するメカニズムを、政治的、経済的、宗教的、人口動態的と区分した。

多くのケースで異なる複数の力学が、これらの学校を存続させ、政府に黙認させていることが明らかになった。中国では農村労働者の流入圧力と都市農村戸籍の維持がこれらの学校を生んでいた。インドやケニアでは、政府の正規学校の基準では教育コストが高すぎるので、授業料の安い非正規学校が求められていた。

研究成果の概要(英文)： The study aimed at investigating the patterns and rationales of unauthorized formal and non-formal schools existing in developing countries. The study focused on the articulation between two systems in China, India, Bangladesh, Mexico, Peru and Kenya. The study revealed the underpinning mechanisms which sustain the stability of these schools mainly from the four rationales, namely political, religious, economical and demographic demands in societies.

In most cases two contradicting demands were detected to keep these institutions in tacit recognition by the government. In China there was huge migration of rural workers into the urban areas, but strict family registration system does not allow children of such workers to enroll in urban schools. In India and Kenya, economical reasons were more salient. Registration requirement for authorized schools was so high that most of the low income families had to send their children to the unauthorized private schools with lower fees.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：学校の正規性 非正規学校 学校接続 Low Fee Private 農民工学校 オルターナティブ学校 認可学校 一条校

1. 研究開始当初の背景

社会には一般に「正規」とされる教育機関(学校)とそうでない教育機関が存在している。しかし教育機関の「正規性」は様々な基準、区分、認識によって定義されており、その境目は実にあいまいなものがある。途上国を中心に広く存在する、非正規学校、未登録学校、無認可学校などは、一般に質が劣悪で、一時的で(仮の存在)、本来は望ましくない学校という認識があるが、実際には多くの社会で、有益で、安定した、必要な学校として存続している。また一部は政府によって黙認され、正規の学校体系に接続するルートを持っている場合もある。

社会において存在する教育機関や学校はすべてその役割を持っており、必要とされる理由と需要が存在している。国家は急速に変化する社会状況に対して、正規の教育機関は迅速に対応する能力に欠ける場合があり、それらでは満たせない教育需要を、政府の基準を満たさない非正規の教育機関が応急的にカバーしている場合がある。非正規学校は、どのような需要によって生まれ、どのようなメカニズムによって安定的に存在しているのだろうか。このような非正規学校に対する研究がきわめて不足していると感じたことが研究の発端である。

2. 研究の目的

本研究はそうした教育の影の部分に光を当て、非正規の教育機関が各国において存在する理由とその背景となる需要、それらが果たしている機能を解明することを目的としている。

さらに、これらの学校が各国政府によって、事実上黙認され、正規の上級の学校体系に接続している場合もあるが、その場合、政府はどのような関与を行っているのか、またどのようなメカニズムで卒業資格を正規学校に認めさせているのかについて、国際的比較の観点から明らかにすることを目的としている。以上をまとめると以下ようになる。

[1] 学校教育体系における正規学校・非正規学校とは何か?

途上国の教育体系には正規学校から非正規学校まで多様な学校群があり、その連続性のなかにおいて、各国における正規性とは何か、その概念を進学要件や補助金受給要件を手掛かりに分析・比較する。

[2] 非正規学校群のはたす役割とは何か?

こうした非正規学校群はどのような理由から利用され、安定して存続している場合には、それを支えているメカニズムとはどのようなものかを考察する。

3. 研究の方法

教育の正規性・非正規性概念についての各国の定義、法的根拠、運用上の実態、分類パターンなどについて整理した。

続いて、比較教育学の方法論を用いて、いくつかの途上国の非正規学校・無登録学校・低授業料の私立学校などについて、各国・地域を専門とする研究分担者、協力者が現地調査を行い、最新の情報を収集した。調査国としては中国(南部、植村)、インド(小原)、バングラデシュ(日下部)、メキシコ(櫻井)、ペルー(工藤)、ケニア(杉本)、マレーシア(杉本)、ブータン(杉本)などを選定した。

それらをもとに、非正規学校の必要とされる背景、存在理由、果たしている機能、接続のメカニズム、政府の関与・規制、問題点と将来動向などについて分析を行った。

各年度、全体会議、部分会議を開催して、収集した知見を持ち寄り、クロスナショナルな視点から比較分析を行い、共通の傾向と独自の特徴などを明らかにした。

4. 研究成果

本研究の結論として、一部の途上国で非正規学校が必要とされる理由や学校の存在するメカニズムのパターンを、政治的、経済的、宗教的、人口動態的と分類した。

政治的な例としては、公教育において閉鎖された学校が避難先において行う、非正規の学校(マレーシア)、経済的には、ケニアやインドのように、正規の学校条件をクリアすると教育コストが高くなる場合、非正規の授業料の安い学校がその代わりとなる場合、

宗教的には、世俗と宗教の複線型の学校体系を持つ場合、(バングラデシュ、ブータン)、

人口動態的には、中国に見られるように、都市の経済の発展によって、農村の労働者の都市流入が起こり、その子弟のために学校が生れるが、戸籍により移動の制限があり、正規教育の範疇からはずれる場合である。

多くのケースで異なる複数の力学が、これらの学校を存続させ、政府に黙認させていることが明らかになった。中国では農村労働者の流入圧力と都市農村戸籍の維持がこれらの学校を生んでいた。インドやケニアでは、政府の正規学校の基準では教育コストが高すぎるので、授業料の安い非正規学校が求められていた。

また、非正規学校が正規の学校教育体系に接続するメカニズムについては、本報告書でカバーされた事例において、大きく3つに分類されることが明らかとなった。すなわち、(1)近い関係にある正規学校と非正規学校の間で、登録や卒業証が非公式に融通されるもの、(2)政府からは無認可ではあるが、国家試験の受験資格がある場合、その成績や合格によって正規性を獲得する場合、(3)中国のように高等教育卒業時点においても国家試験によって、過去の学歴にかかわらず

大学卒業資格が得られるケース、である。

これらの成果を報告するために、2013年の日本比較教育学会第49回大会(上智大学)において、課題研究において、「正規・非正規教育の接点(グリーレイゾン)に関する国際動向」を企画し、杉本・小原・植村の科研メンバーに、江原(帝京大学)、二井(愛知教育大学)を加えて報告を行った。また京都大学大学院教育学研究科で発行されている『アジア教育研究報告』(アジア教育研究会機関誌、京都大学教育学部発行)の第13号に特集「途上国の中等学校等の多様化と正規性・非正規性に関する国際比較研究」を組んで、刊行した。(2014年3月)

目次は以下のとおり。(全93頁)

- 第1章 総括 杉本 均
- 第2章 中国 植村 広美
- 第3章 インド 小原 優貴
- 第4章 バングラデシュ 日下部 達哉
- 第5章 メキシコ 櫻井 里穂
- 第6章 ペルー 工藤 瞳
- 第7章 中国 南部 広孝

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

杉本 均・中島 悠介、2012年、「中東諸国におけるトランスナショナル高等教育」、『京都大学大学院教育学研究科紀要』第57号、11-17頁。

南部 広孝、2012年、「香港におけるトランスナショナル高等教育の展開」、『比較教育学研究』第43号、62-74頁。

杉本 均、2013年、「シンガポールにおける才能教育」、『比較教育学研究』第44号、22-36頁。

杉本 均・小原 優貴・門松 愛、2013年、「南アジアにおける就学前の保育と教育(ECE)プログラムの展開」、『京都大学大学院教育学研究科紀要』第58号、73-97頁。

杉本 均、2013年、「ブータンの子どもたちの幸福度と教育」、『教育と医学』、12-19頁、慶応大学出版会。

杉本 均、2014年、「正規・非正規教育の接点に関する国際動向」、『比較教育学研究』第45号、146-150頁。

[学会発表](計5件)

杉本 均、2012年6月、「ブータン王国におけるGNHと教育—幸福は教えられるか?」日本比較教育学会第48回大会(九州大学)

Hitoshi Sugimoto, 2013.4, Professional Development of Japanese Teachers and the Use of Teaching Portfolios, The Third Annual Conference on Educational Reform (招待講演), National University of Qatar, カタール国ドーハ

杉本 均、植村 広美、小原 優貴、江原 裕

美、2013年、7月、「正規・非正規教育の接点(グレイゾン)に関する国際動向」、第49回日本比較教育学会大会、課題研究、上智大学

Hitoshi Sugimoto, 2013.10 Education in Kingdom of Bhutan; Its Role for pursuing Gross National Happiness, Chinese Taipei Comparative Education Society International Symposium, 台湾師範大学、台湾、台北

Hitoshi Sugimoto, 2014.4 Japanese Experience in Teacher Education and its Recent Initiatives for Research Based Approach, Forum on Elementary School Teacher Preparation in Saudi Arabia; Global View and National Ambition, King Saud University キングサウド大学、サウジアラビア、リヤド

[図書](計3件)

子安 増生・杉本 均編、2012年、『幸福感を紡ぐ人間関係と教育』200頁、ナカニシヤ出版。

杉本 均、2014年、『途上国の中等教育学校等の多様化と正規性・非正規背性に関する国際比較研究』、『アジア教育研究報告』第13号、93頁。

小原 優貴、2014年、『インドの無認可学校研究 公教育を支える「影の制度」』、213頁、東信堂。

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

杉本 均(SUGIMOTO, Hitoshi) 京都大学大学院教育学研究科・教授

研究者番号：50211983

(2)研究分担者

南部 広孝 (NAMBU, Hirotaka) 京都大学大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：70301306

(3)連携研究者

櫻井 里穂 (SAKURAI, Riho) 広島大学教育開発国際協力研究センター・准教授
研究者番号：505090354

日下部 達哉 (KUSAKABE, Tatsuya) 広島大学教育開発国際協力研究センター・准教授
研究者番号：70534072